

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務委員会

(責任者名) 亀村 和生
(役職名) 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務委員会において、プログラムの履修および修得状況について分析を実施し、分析したデータは科目の担当教員に共有され分析されている。さらに教務委員会の自己点検・評価の結果を、学部の事業の検証組織である学部事業検証委員会においても確認することで、バイオMDASHスター制度の進捗状況や課題への取り組み状況などのプログラムの検証を行っている。 また、プログラムの履修・修得状況に応じて、必要に応じて学生の履修をサポートするためのフォローアップを学生教育推進機構事務室の教務担当、ならびに、科目担当教員が実施する。
学修成果	教務委員会において、プログラムを構成する科目の単位評価、および、バイオサイエンス学部において実施している授業アンケートにおける「学生自身に対する評価」の項目への回答を分析することによって授業内容の学生の理解度を把握し、その結果を科目担当教員と共有することで、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	バイオサイエンス学部において実施している授業アンケートにおいて、授業内容を十分理解できたかを確認しており、学生自身の自己評価を把握している。さらに、シラバスに明示されている「到達目標」を達成することができたかをアンケートで確認しており、具体的な学習内容の到達度を把握している。また、授業の進行速度の適切さについても確認し、理解に必要な適切なペース配分を把握している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	バイオサイエンス学部において実施している授業アンケートにおいて、「授業に対する評価」の項目で総合的にみた授業に対する満足度をはじめとした授業の評価を確認しており、その集計結果を学内で公開することで、他の学生への推奨度の情報としている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度以降の入学生はプログラムの履修を必修とし、プログラムを構成する授業科目を全学必修として開講している。 入学直後の新生オリエンテーションにおいて、科目担当教員から本プログラムの説明の機会を設け、全ての新生に履修についての周知をおこなっている。 令和10年度には全学生がプログラム履修者となる見込みである。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	既卒生アンケートを卒業5年、10年、15年後に実施し、本制度を修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また卒業した学生が就職した民間企業等に対して就職3年後を目安に企業アンケートを実施しており、本制度を修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握することが可能である。さらには、本教育プログラムから発展した科目において、企業とのPBLを計画しており、本教育プログラムを修了した後に、発展的に企業の取り組みに生かせる枠組みを構築している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	共同研究等提携企業及び本学が実施している長浜バイオ大学「産学連携人材育成コンソーシアム」に参加している企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集し、教務委員会においてプログラムの改善に活用することが可能になっている。また、長浜バイオ大学「産学連携人材育成コンソーシアム」において、産業界からの視点によって、次世代の数理・データサイエンス・AI教育研究に関わるフィードバックを得られる体制になっている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。取り上げる実例については、授業アンケート等を活用し、その内容について評価を実施している。授業アンケートにおいては、受講することによって、この科目への興味関心を深めることが(興味関心を持つことが)できたかを聞いており、講義内容から、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を学生が感じることができたかを確認している。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	教務委員会にて授業アンケートの回答(意見)を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。内容・水準を維持・向上することの一環として、長浜バイオ大学「産学連携人材育成コンソーシアム」に参加している企業の動向を踏まえた教育内容・手法の見直しを行っている。特に、その内容を、数理・データサイエンス・AI教育にフィードバックすることで内容・水準の維持・向上を図っている。